

子どもの皮膚発疹

急な皮膚発疹で、緊急性のある疾患はまれです

緊急性あり

- ・食物や薬剤のアレルギーによるアナフィラキシー
発疹だけでなく、せき込み、呼吸困難、嘔吐、ぐったり感がある

緊急性なし

- ・じんま疹：アレルギーによるものはまれで多くは原因不明
- ・ウイルス性発疹：水ぼうそう、突発性発疹、手足口病など
- ・溶連菌、川崎病に伴う発疹
- ・紫斑（出血斑）：発疹を指で押しても発疹が消えない

しばらく様子を見てもよい時：翌日は主治医を受診する

- ・痛みや痒みが強くない
- ・他の症状（せき込み、呼吸困難、激しい下痢、嘔吐）がない
- ・顔色がよく、元気や活気がある
- ・発疹部を冷やしたら、かゆみや発赤が軽くなった

早めに救急外来を受診したほうがよい時

- ・食物や薬剤のアレルギーによるアナフィラキシー
- ・かゆみが強い、眠れない
- ・顔面や手足、関節などが腫れている

急患センターを上手に利用しましょう

重篤な、あるいは緊急性のある病気の子どもたちを優先的に診察してもらうために、保護者の方が子どもの状態をしっかりと把握して、急がない病気であれば自宅で看護し、翌日に子どもさんのことをよく知っている「かかりつけの先生」に診察してもらうようにしましょう。

急な発熱、腹痛、皮膚発疹などでも、急いで診察を受ける必要のある病気はまれです。

「発熱した時」、「腹痛を訴えた時」、「皮膚に発疹が出た時」の対応について説明しています。夜間や休日に急患センターを受診したほうがよい場合、翌日に「かかりつけの先生」に診察してもらう方がよい場合などを記載しています。

よく読まれて、急患センター受診の参考にしてください。

平成 24 年 4 月

福岡市
福岡市医師会
福岡地区小児科医会

子どもの発熱：早期受診の目安

急な発熱でも、重篤な病気はまれです

発熱 12 時間以内で全身状態が悪くない時は自宅で看護しましょう

— 発熱早期には診断が難しい —

咽頭(のど)の所見「赤いか？ 口内炎は？ ヘントウの腫れは？」

⇒発熱 12 時間以内は、変化が出てこない

血液検査「白血球数は？ CRP は？」・風邪？怖い細菌？の区別

⇒発熱 12 時間以内は、増加してこない

インフルエンザ迅速検査は？ 溶連菌迅速検査は？

⇒発熱 8~12 時間以内は、陽性に出てこない

しばらく様子を見てもよい時

- ・発熱早期で全身状態がよい時
- ・高熱で全身状態が悪い「眠ってばかりで呼びかけても、またすぐに眠ってしまう。顔色が悪くぐったりしている。激しく泣き、あやしても泣きやまない」時でも、
「解熱剤」を使用して、解熱後に状態がよくなった時

早めに救急外来を受診したほうがよい時

- ・全身状態が悪く、「解熱剤」を使用した後も状態の改善がない時
- ・熱以外に、繰り返す嘔吐、10 分以上続くけいれん、眠れない咳などの重症な症状がある時

急な発熱で怖い病気はヒブ菌や肺炎球菌による髄膜炎です

早めに予防接種を受けましょう

こどもの腹痛：早期受診の目安

腹痛の多くは便秘です（硬い便が肛門に栓をしている）

- ・毎日便が出ていても、軟かい便が出ていても便秘のことがあります
- ・便秘の腹痛でも、激烈で救急車を呼びたくなることもあります

しばらく様子を見てもよい時：

- ・腹痛が 30 分以内で治まる
再び腹痛が起こっても、間隔が 2~3 時間以上は開いている
- ・発熱すると子どもは腹痛を訴えやすいので、
⇒ 熱がある場合は解熱剤を使用し、解熱後に腹痛が治まる
- ・腹痛が治まらない時は、
⇒ 自然排便あるいは浣腸液で排便させ、排便後に腹痛が治まる

早めに救急外来を受診したほうがよい時

心配な病気は腸重積、虫垂炎、胃腸炎、ヘルニアなど

- ・腹痛が 20 分~30 分おきに繰り返す。小さな子どもは繰り返し激しく泣く
- ・睡眠ができない程度の腹痛が続く
- ・嘔吐や下痢を繰り返す
- ・排便後、浣腸後も腹痛が続く
- ・足の付け根にしこりがある
- ・睾丸が腫れている